

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

√

学校の概要

学校名	上田市立北小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	3	3	3	2	21	30
児童数	77	84	109	89	83	95	5	542	

研究の概要

1 研究主題

確かな力を身につけ、わかる喜びを実感できる授業の創造  
 ~子どもの願いと評価規準を生かした、確かな力をつけるための授業~

2, 内容と方法

(1) 実施学年・教科

5年・6年 算数  
 子どもの理解度に差が出やすい教科であること。  
 少人数学習を実施している学年であるため。  
 対象を1年~4年にも広げ、国語なども研究対象としたい。

(2) 年次ごとの計画

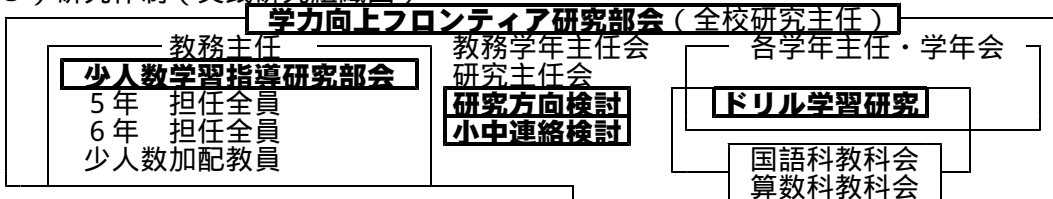
平成 14 年度	<p>テーマ                      確かな力を身につけ、分かる喜びを実感できる授業の創造。</p> <p>仮説                      ・少人数学習コースの自己選択・自己決定 意欲的な学習                      ・コース別学習過程の工夫 基礎基本の力の定着                      ・ドリル学習の工夫 基礎基本の定着・発展的学習の試行</p> <p>研究内容・方法                      ・コース別学習(習熟度別学習)選択の過程をいくつか試行してみて                      その過程を一般化し、その過程で決定された子どもたちの授業での                      様子を記録する。                      ・学習コースに応じた学習過程を工夫し、市販テストの結果を観点別                      に考察する。 ・全校ドリルの時間の実施。</p>
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ                      確かな力を身につけ、分かる喜びを実感できる授業の創造。                      「数学的な考え方」を伸ばす学習のあり方。</p> <p>研究の見通し                      ・コース別学習過程の工夫 「考え方」の力を伸ばす。                      ・「数学的な考え方」を伸ばす評価のあり方                      ・分かる実感がもて、学ぶ意欲を高める自己評価のあり方                      ・全校ドリル学習の工夫 基礎基本の定着・発展的学習の試行</p> <p>研究内容・方法                      ・学習コースに応じた学習過程を工夫したり、「考え方」を伸ばすた                      めに教師がどのように評価するか、また、学習意欲を高める、数学                      的な考え方の力を伸ばす自己評価はどうあったらよいか研究。                      ・市販テストの結果を観点別に集計し考察したり、学力テスト実施。                      ・全校ドリルの時間のあり方、進学先の中学校と連絡をとりながら、                      学力向上の方向について協議する。</p>
----------------	--

平成  
16  
年

**テーマ**  
 確かな力を身につけ、分かる喜びを実感できる授業の創造。  
**研究の見通し**  
 ・低学年や中学年における数学的な考え方を伸ばすための評価や自己評価のあり方を研究する  
 ・課題別コースの設定と選択 創造性をのばす学習  
 ・中学年における習熟度別学習のありかた 基礎的な力の定着  
 ・コース別学習過程の工夫 基礎基本・考える力を付ける。  
 ・全校ドリル学習の工夫 基礎基本の定着・発展的学習の試行  
**研究内容・方法**  
 ・課題別の学習コースを組み入れ創造性を伸ばすような学習過程の工夫をする。  
 ・学力調査を実施し結果を考察する。  
 ・全校ドリルの時間の実施。・中学との学力定着協議。

(3) 研究体制 (実践研究組織図)



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1、研究の成果  
 数学的な考え方を「ア見通しをもつ イ解決しようとする ウ関係性を意識する」という3つの段階でとらえていこうとしたことは、それぞれの段階に応じた評価規が設定しやすいことと「数学的な考え方を伸ばすための授業の一つのモデルとして活用しやすいということが実証されたといえる。(評価のための評価規準でなく業の中で有効に活用できる評価規準となった)また、このような授業展開の積みねで子どもたちの「数学的な考え方」を高めることができそうなことが見えてき。(表2)

数学的な考え方の力の高まりの継続的とらえ 表2

児童 評価	R子			M男		
	見通し	筋道立て	関係性	見通し	筋道立て	関係性
	B	B	B	A	B	A
↓						
本時の 評価	見通し	筋道立て	関係性	見通し	筋道立て	関係性
	A	A	B	A	A	B

自己評価を取り入れた授業を展開してきた中で、見通しをもって取り組んできたことや、関係性を考えあってきたことを見返すことによって力の高まりを実感させようとしてきたことは、問題に直面した子ども自身が見通しを持ったり、関係性を考えあったりするといった数学的な考え方を高めるために有効であったと思われる。  
 教師が子どもを評価することだけでなく、子ども自らによる力の実感こそが、数学的な考え方を力として子どもの中に蓄えていくことになるのである。  
 評価規準を「数学的な考え方」のとらえに沿って授業に位置づけながら、子どもの自己評価を生かして授業を展開することを積み重ねていくことによって 子どもたちが確かな力を身につけ高めたいけることがはっきりしてきた。

2、今後の課題

習熟度別学習コースだけでなく、課題別学習コースを設定したり、低学年の算数や、他の教科でも自己評価のあり方について研究していきたい。  
 また、中学校に進学後の子どもたちの学習のあり方を探りながら、より長い期間において学力の伸びの様子を調査していく必要があると見えてきた。

、学力把握のための学校の取り組みについて

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な学力調査の実施（年1回）</li> <li>・進学先中学校との連絡協議会</li> </ul> |
|---|

、フロンティアスクールとしての成果の普及について

名 称	期日	会場	対象参加者
・少人数学習指導研究会実施	平成14年 6月	北小	上小地区全教職員
・少人数学習指導研究会実施	平成15年 6月	北小	城北地区教職員
・フロンティアスクール 学習指導研究会	平成15年11月	北小	上小地区全教職員
・フロンティアスクール 学習指導研究会	平成16年 7月	北小	上小地区全教職員

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
 13～18学級                   19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
 一部教科担任制                   その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
 生活                       音楽                       図画工作                   家庭  
 体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無